

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2019 年 10～12 月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲15 となり、2 期連続で改善したが、今後の見通しは▲25 となり、悪化する見込みとなっている。経営上の問題点を見ると、10 期連続で「従業員の不足」が 1 位となり、深刻な人手不足が続いている。

2019 年 10-12 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 23%で前回調査(2019 年 7-9 月期 23%)と同水準であった。「好転」とした企業は 8%で前回調査(6%)より 2 ポイント改善した。景況判断 DI は▲15 となり、前回調査(▲17)より 2 ポイント改善した。見通しは▲25 となり、10 ポイント悪化する見込みとなっている。

以下、その他業況感 DI の内訳

2019 年 7-9 月期に対して、

- ・売上高 DI は 11 で、13 ポイント改善
- ・処理量 DI は 10 で、15 ポイント改善
- ・営業利益 DI は 2 で、7 ポイント改善
- ・資金繰り DI は 0 で、1 ポイント改善
- ・借入難易度 DI は 8 で、1 ポイント改善
- ・設備投資 DI は-5 で、7 ポイント悪化
- ・従業員数 DI は 0 で、同水準
- ・契約単価 DI は、収集運搬が 6 で、1 ポイント悪化
処分が 11 で、3 ポイント悪化

- 売上高の動向については、前年同期比(3 ヶ月平均)で 7.5%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比(3 ヶ月平均)で 14.4%減となった。
- 経常利益率については、平均値が 5.55%で前回調査(5.57%)より悪化した。
- 経営上の問題点は、「従業員の不足」25.5%(前回 25.6%)が 10 期連続で 1 位となった。

※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

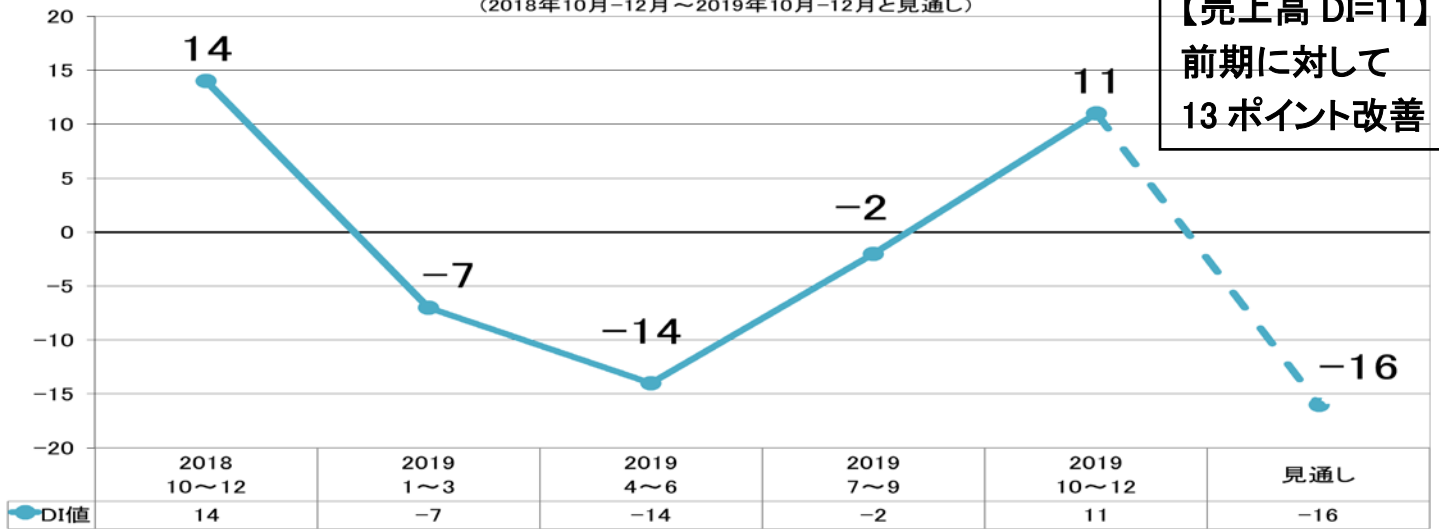
〔調査の要領〕

- ▶ 調査の対象:2008 年 10-12 月期で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員
- ▶ 調査の方法:郵送によるアンケート
- ▶ 調査期間:令和 2 年 1 月 17 日～2 月 18 日
- ▶ 回答企業数:347 社

売上高DI

(2018年10月-12月～2019年10月-12月と見通し)

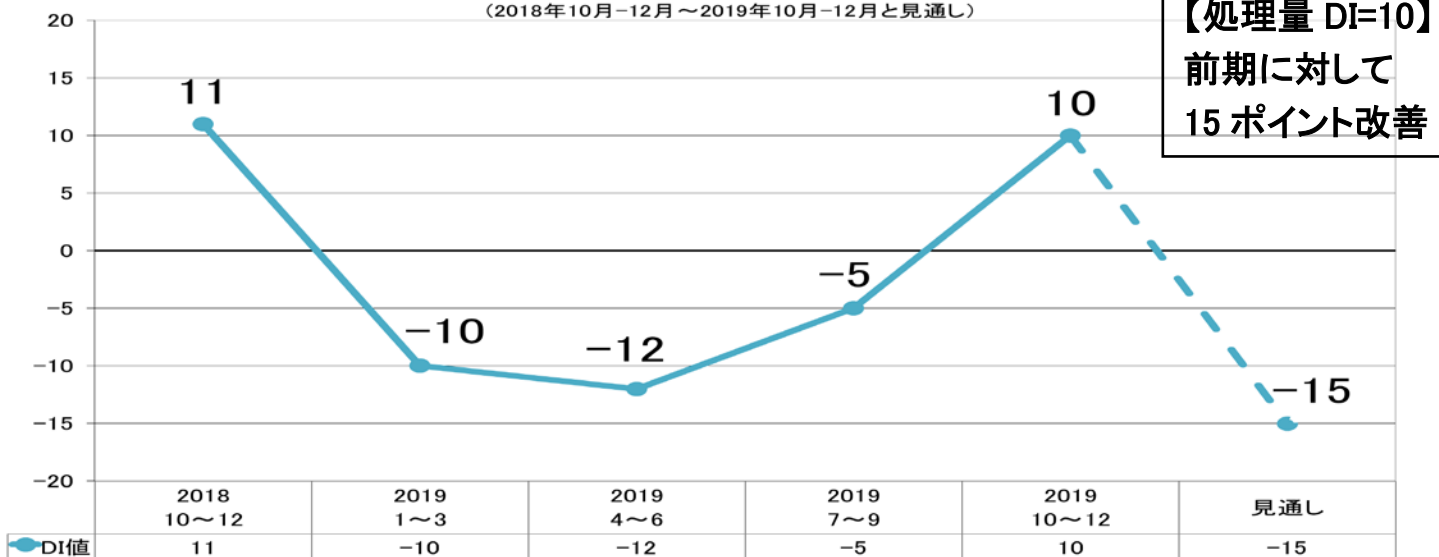
【売上高 DI=11】
前期に対して
13ポイント改善



処理量DI

(2018年10月-12月～2019年10月-12月と見通し)

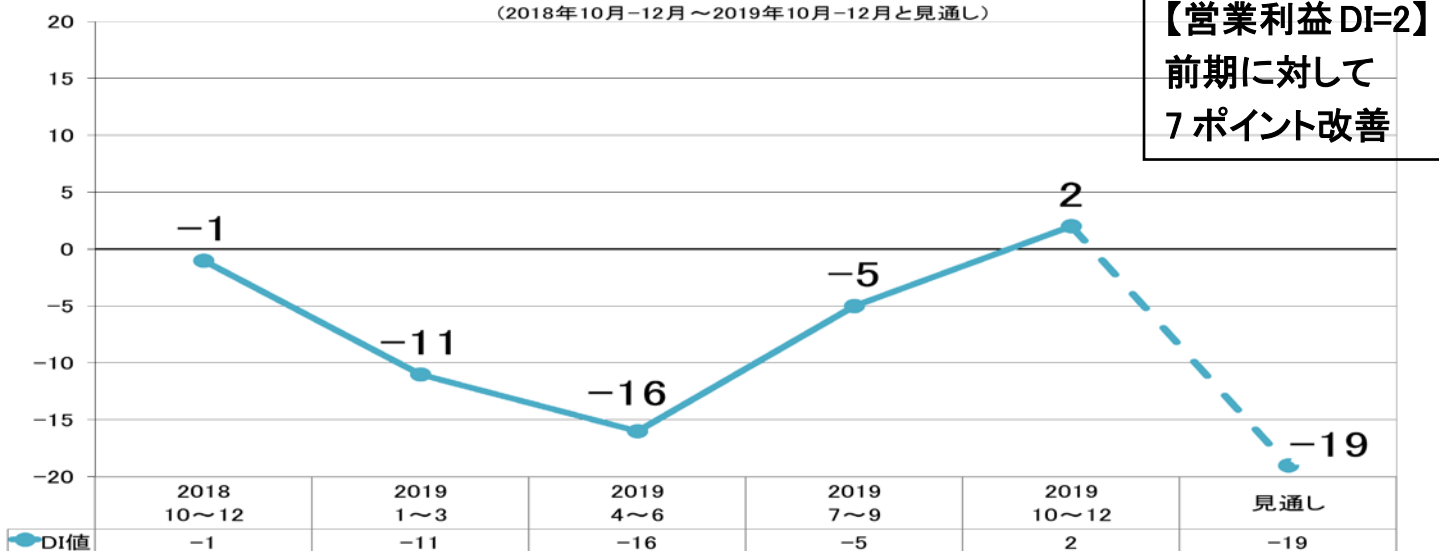
【処理量 DI=10】
前期に対して
15ポイント改善



営業利益DI

(2018年10月-12月～2019年10月-12月と見通し)

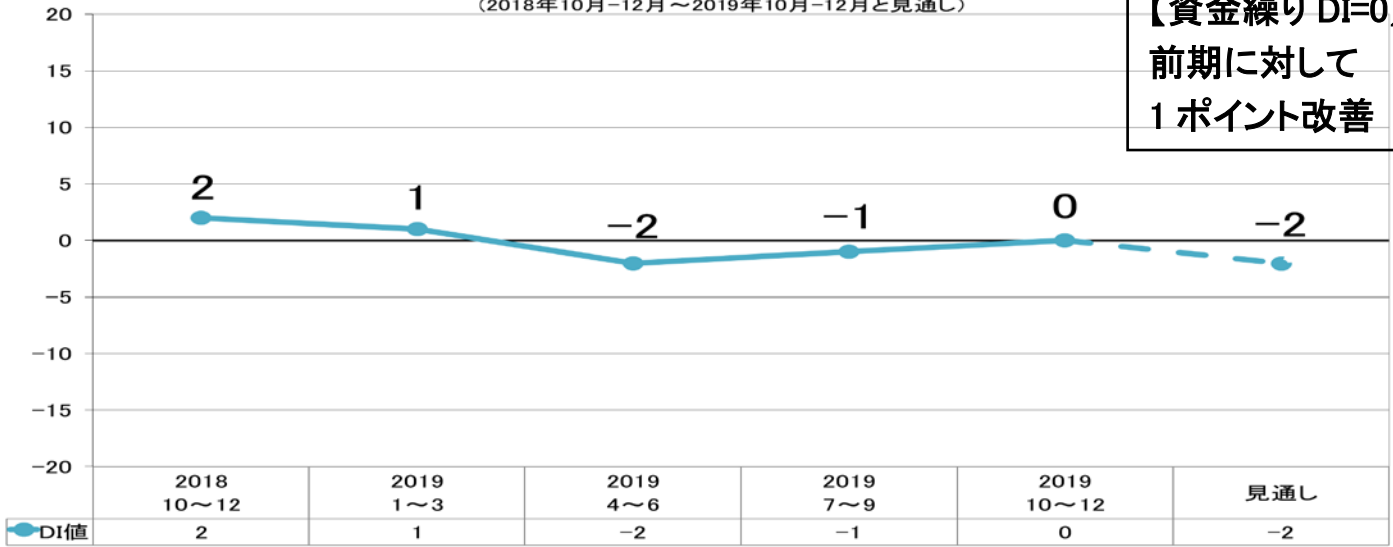
【営業利益 DI=2】
前期に対して
7ポイント改善



資金繰りDI

(2018年10月-12月～2019年10月-12月と見通し)

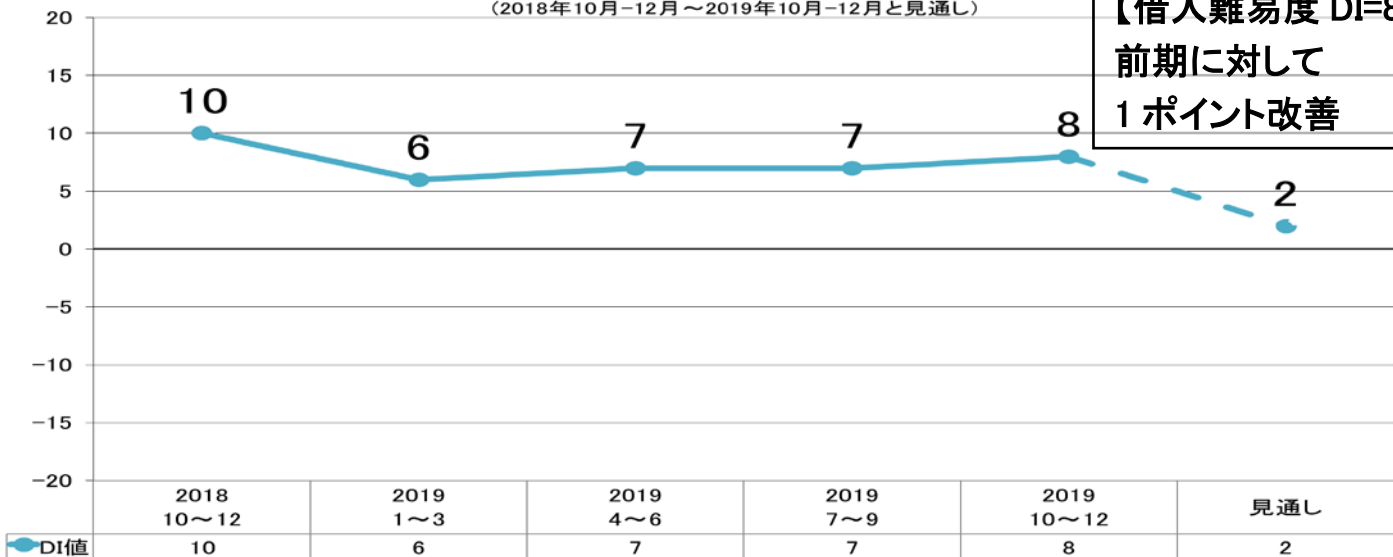
【資金繰りDI=0】
前期に対して
1ポイント改善



借入難易度DI

(2018年10月-12月～2019年10月-12月と見通し)

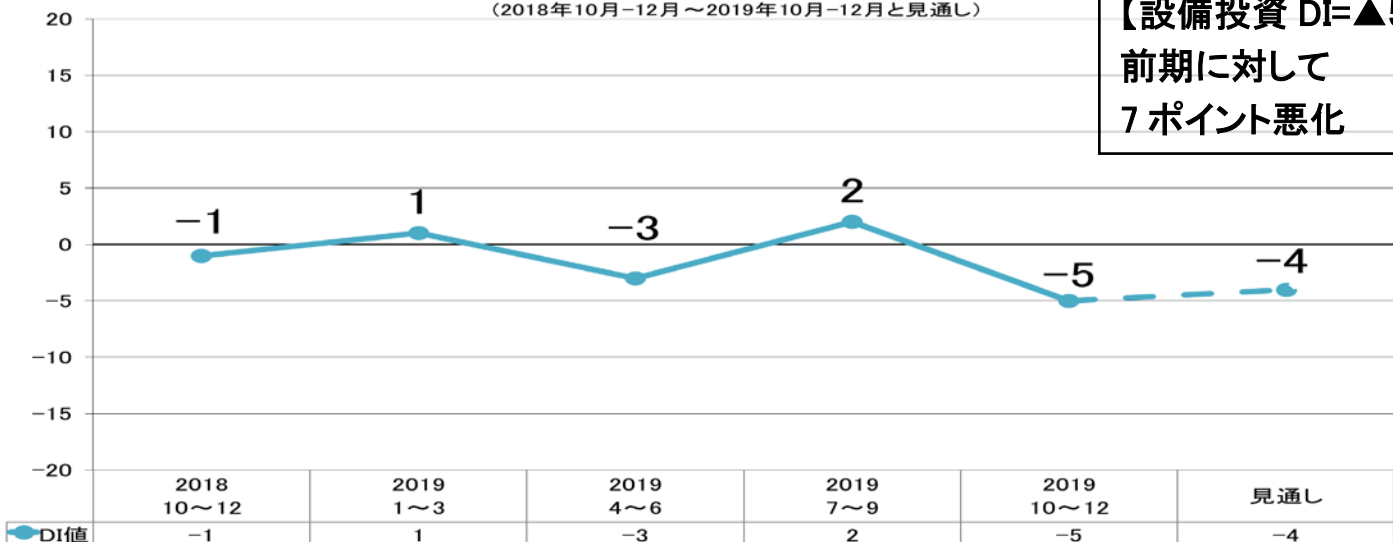
【借入難易度DI=8】
前期に対して
1ポイント改善



設備投資DI

(2018年10月-12月～2019年10月-12月と見通し)

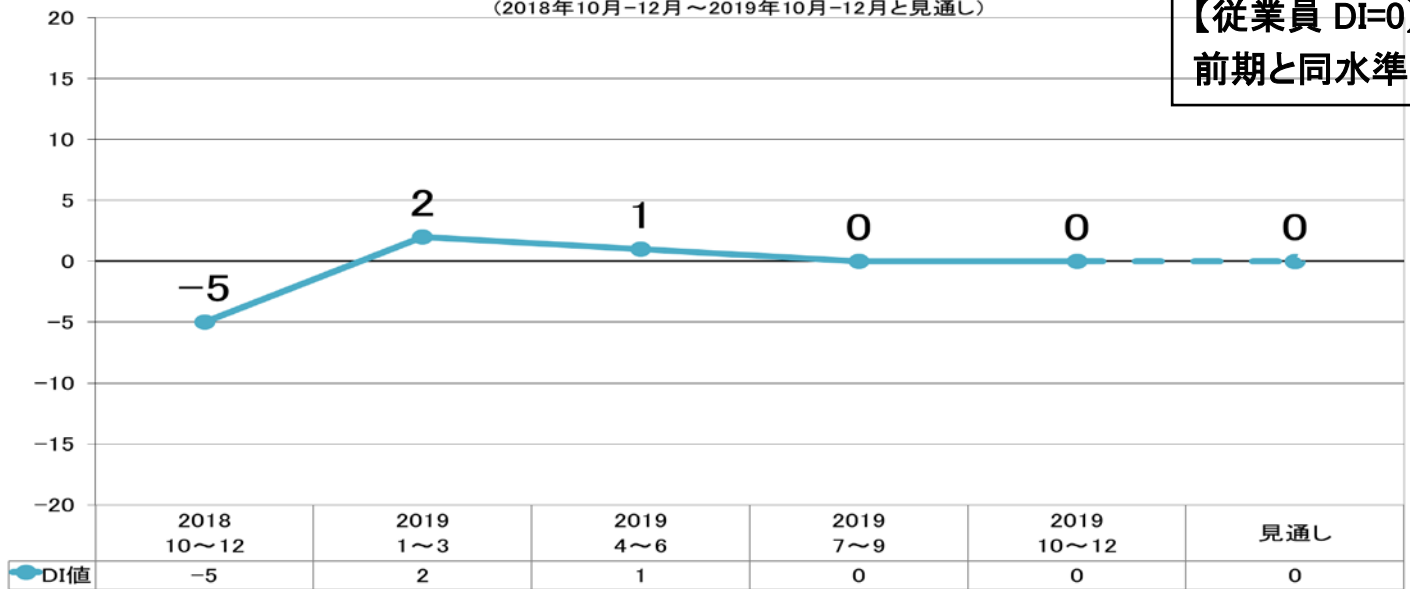
【設備投資DI=▲5】
前期に対して
7ポイント悪化



従業員数DI

(2018年10月-12月～2019年10月-12月と見通し)

【従業員 DI=0】
前期と同水準



【地域別レーダーチャート】

